

事例 44

タイトル：共同生活や共同生活者に対する不満、イライラ

・ < 事例の状況 >

入居後 8 ヶ月経つ A さんは、グループホームでの生活にイライラすることが多く、不満が言動に表れる。例えば、家事仕事で他者のやり方が気に入らなかったり、外出時、自分のペースに合わずモタモタしていると、気分がイライラし強引な態度を取り他者とトラブルになったり、手伝い等の声掛けには反発することが多く、皆の前でも「なんでこんなことしなくちゃなんないの！」「させる方が間違ってる！」と反発し、他利用者が作業している姿にも文句や暴言もある。また、他利用者のものを勝手に持っていく等、共同生活を無視した言動が目立つ。従って、他利用者から恐れられたり、他利用者からの不満の声や陰口などもあったり、お互いの共同生活に影響が大きい。

・ < この事例で課題と感じている点 >

本人の A D L と他利用者の A D L の差や生活のやり方、考え方に納得できず不満をもっている。A さんの言動を止めることができず振り回され、スタッフや他利用者のストレスが強い。A さんに対する関わり方に難しさを感じているためか、他のスタッフも関わりが少なくなっている。

・ < キーワード >

共同生活。他者への理解。自由にできない。監視されているようだ。

・ < 事例概要 >

【年 齢】 80 歳代前半

【性 別】 女性

【職 歴】 洋裁を請け負い仕立ての仕事をして生計を立てていた。

【家族構成】 一人暮らし（子供なし）

【認知機能】 不明

【要介護状態区分】 要介護 2

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 アルツハイマー型認知症 高血圧 糖尿病 脳梗塞

【現 病】 アルツハイマー型認知症 難聴

【服 薬】 アリセプト D 錠・セロクラール錠・プレミネット錠・アムロジン OD 錠

【コミュニケーション能力】 自分から気に入った人とは積極的に関わり、相手の相談事（不平や不満）を聞いて、自分の価値観にてアドバイスをする。社交性もあり、調子が良い時はユーモアも通じる。難聴のため本人の視界に入り、大きめの声で話し掛けないと理解できていない時がある。他利用者やスタッフの区別は理解している。電話で話すことに支障はなく、操作は自分で行える時もある。

【性格・気質】 短気。せっかち。社交的。男っばい。はっきりした性格。きれい好き。人に言われてするのは嫌。

【A D L】 ほぼ自立。

【障害老人自立度】 A 1

【生きがい・趣味】 散歩。ドライブ。甥との外食。社交ダンス。

【生活歴】 2度結婚、2度目は死別。子供はなく、一人暮らしだった。毎日姪の家へ行っていたが、入居前はデイサービスに週6回行っており、土日は甥の家へ宿泊して過ごしていた。

【人間関係】 キーパーソンは甥であり、本人は、財産・金銭管理・自分の処遇等すべてのことについて、甥にとっても信頼を寄せ任せている。甥はグループホームに入居後も面会に頻回に訪れ、昼食など外食に出かける等気を遣っているようである。しかし本人は甥が頻回に訪れていることを忘れておくことも多く、甥に何度も電話しホームに預けている金銭等の確認をすることもある。甥以外の家族との人間関係（その他の家族や友人）は、ほとんどないようである。ホーム内では、本人の気に入った利用者との会話は毎日あり、自ら積極的にコミュニケーションを取っている。スタッフには、誰ということなく好き嫌いはない。

【本人の意向】 もっと自由に暮らしたい。自分のやり方、考え方が正しい。

【事例の発生場所】 グループホーム